III　日吉地区のまちづくり

１　地域の特性と課題

１　環境共生のまちづくり

(1)自然環境との共生

①日吉地区には、幸区の緑の拠点・歴史文化の拠点として、加瀬山（夢見ヶ崎公園）があります。さらに、鶴見川や矢上川が流れ、かつての二ケ領用水の支川であった小倉緑道もあります。これら、水と緑の拠点をつなぎ、ネットワークを形成する（緑のリング構想）が求められています。

②日吉地区には、約 33ha にも及ぶ、新鶴見操車場の跡地が広がっています。かつては、京浜工業地帯の物流を支える拠点でしたが、現在、地区計画による再開発が予定されています。新川崎地区の新たなまちは、環境共生のまちづくりのシンボルとして、公園や緑化地を確保し豊かな森の創造を進めるとともに、自然エネルギーや循環型エネルギーシステムの利用を導入するまちをめざします。

(2)地域社会における共生

①かつては、農地が広がっていましたが、近年では、宅地化が進んでいます。緑があふれ、うるおいのある、住民が誇れるまちとするために、住宅市街地の再生、改善を進め、建築協定や地区計画等のまちのルールづくりを進めることが必要となっています。

②日吉地区には、９つの商店街がありますが、近年では、空き店舗が目立つようになっています。商店街は、高齢社会における、人々が集うまちづくりの拠点として、活性化を進めていく必要があります。

(3)人と人との共生

◎人々が出会い、交流できるまちづくりをすすめるために、小学校の余裕教室等の既存施設を活用したコミュニティ施設づくりや、子育てや介護を支える助け合いのネットワークづくりを進めていく必要があります。

2　安全な生き活きまちづくり

(1)安全で安心して暮らせるまち

①日吉地区では、戦前・戦後にかけて耕地整理が行われ、住宅地としての一定の基盤が整備された地区と、道路基盤が未整備の地区も存在します。特に、防災上危険な密集住宅市街地もあり、その改善が求められています。

②日吉地区では、幹線道路の整備が遅れていることから、通学路の危険性が指摘されています。生活道路から通過交通を排除し、歩行者や自転車が安全に通行できる環境を整備するためにも、幹線道路の整備が不可欠です。さらに、生活道路の安全性を確保するためには、地域で話し合い、「コミュニティゾーン」等を設定し、交通規制を組み合わせた道路整備を進める必要があります。

(2)多様な交流、賑わいのあるまち

①幸区の広域拠点、日吉地区の生活拠点として、新川崎駅・鹿島田駅周辺地区を位置づけ、交通結節点としての機能を高め、にぎわいある拠点機能の集積を図ることが求められています。

②日吉地区では、東西の横断方向の幹線道路整備が遅れています。さらに、新鶴見操車場跡地が地区を分断しているとともに、南武線の踏切が交通渋滞の原因となっています。新川崎地区のまちづくりの中で、必要な道路整備を進めるとともに、南武線の立体化を進め、区内の交流を活発にする必要があります。

③日吉地区のバス路線網は、川崎駅西口に集中しています。新川崎駅や鹿島田駅での交通広場の整備にあわせて、バス路線網を再編するともに、コミュニティバス等の検討も進める必要があります。

(3)時代をリードするものづくりのまち

◎新川崎地区には、Ｋ２タウンキャンパスなどの研究施設の立地が見られます。新たな再開発の中で、情報関連産業や研究機能の集積の集積を進め、新しい産業都市としての再生・発信が求められています。

2　魅力あるまちづくりのために

(1)まちの拠点を育む

①幸区の広域的拠点、日吉地区の生活拠点として、新川崎・鹿島田駅周辺地区を位置づけ、交通結節点の機能を高めます。

②新川崎（新鶴見操車場跡地）のまちづくりにあたっては、環境共生のまちとして、緑の回廊の拠点として、豊かな森の創造をめざします。あわせて、研究開発機能や区の中心部としての商業・業務等のまちのにぎわいづくりや良好な都市型住宅の整備、さらに、防災の視点から、公園やオープンスペースを確保する必要があります。

③鹿島田駅周辺の整備にあたっては、既存商店街と再開発地区とのバランスを考え、賑わいの拠点としての魅力向上を図ります。

(2)豊かな生活を育む

①商店街は、人が集うまちづくりの拠点として位置づけ、高齢社会に対応した商店街のサービスやコミュニティ施設の整備を進めるとともに、大規模小売店舗の立地に関しては、地域に対する貢献を義務づける必要があります。

②区内産業、研究機関、産業振興機関の連携により、新しい産業都市として、再生・発信します。

③緑があふれ、うるおいのある、住民が誇れるまちとするために、住宅市街地の再生、改善を進めるとともに、住民の話し合いにより、建築協定や地区計画等のまちのルールづくりを進めます。

④人々が出会い交流できるまちづくりを進めるために、地域コミュニティを育てます。

(3)水と緑を育む

①加瀬山を緑の拠点、歴史・文化の拠点として位置づけ、多摩川や鶴見川・矢上川、二ケ領用水、公園・緑道をつなぐ水と緑のネットワークを創造します。（緑のリング構想）

②親しまれる公園づくりや小倉緑道の再整備や民有敷地の緑化により、区内の緑被率を高めます。

③鶴見川や矢上川の多自然型の整備を行い、水辺空間を再生、創出します。

(4)みち・交通を育む

①区民の生活空間から通過交通を排除するため、南北の縦貫方向と東西の横断方向のネットワークを構成する幹線道路を整備します。あわせて、沿道の環境対策を進める必要があります。

②地区内の生活道路は、自転車・歩行者にとって安全な空間とするため、「コミュニティゾーン」等を設定し、交通規制を組み合わせた道路整備を進めます。

③歩道の設置や段差の解消、障害物の除去により誰もが歩きやすい歩道の整備を進めます。

④幹線道路の自転車道整備や駅周辺、スーパー等に駐輪場を設置し、放置自転車対策を進めます。

⑤区内を分断し、交通渋滞を引き起こしている踏切解消するため、南武線の立体化を進めます。

⑥新川崎駅、鹿島田駅を交通結節点として位置づけ、区内のバス路線網を再編するとともに、コミュニティバス等の事業化に向けた検討を市民、事業者、行政とで進めます。

(5)安心を育む

①防災上危険な密集住宅市街地の改善を図ります。

②集合住宅や大規模工場の安全性の強化や幹線道路の防災性の向上により、災害に強いまちづくりを進めます。

③大きな公園の防災拠点としての活用を進めます。

④犯罪を未然に防止するために、コミュニティの防犯対策を進めます。